



Pierre Frick ピエール・フリック



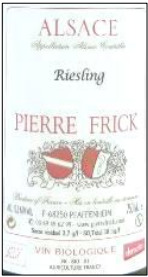
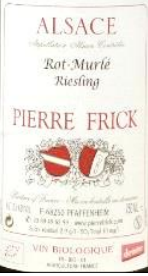
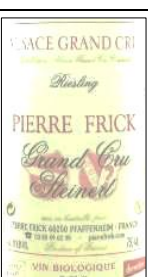
1970年にビオロジック、1981年にビオディナミを開始した、アルザス有機農法の先駆者。当主ジャン・ピエールは、コルマルの南、ファッフェンハイム村にあるブドウ農家の12代目。長年の真摯なビオディナミ栽培により力強さを備えたブドウ樹には生命力が吹き込まれ、近年はボルドー液の使用も大幅に低減した。12haの自社畑の一部は、ブルゴーニュと同じジュラ紀ドッガー時代（バトニアン期、バジョシアン期を含む）の魚卵状石灰岩も豊富。醸造時は、白品種も全て全房でプレスし、100年以上使い続ける30hlのフドル（大樽）で熟成。1988年以来、補糖を一度も行っていない。複数ある亜硫酸無添加キュヴェには立体感ある舌ざわりがとれない、触覚的なテクスチャが現れる。信条は、「ブドウの樹は、天と地をつなぐ架け橋。ワインの本質とは審美的なものであり、それは芸術の一分野を占めている。ワインは自然への愛と、畏怖の念が刻印されるべきものである」。

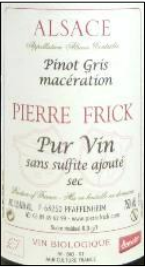
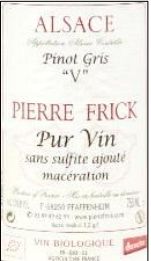
【ワインはすべて、気候条件に恵まれない年で、ブドウを買う場合であっても、ビオディナミで栽培され、手作業で収穫されたブドウのみを原料としています。圧搾は空気圧式プレスで行い、補糖、補酸はせず、自然酵母で発酵させ、温度管理はしていません。通常1～2回は澱引きをし、マロラクティック発酵もまた自発的に、そして完全に行われます。

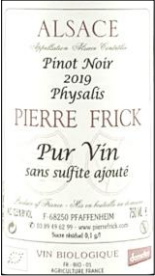
発酵が終わると、古いオークの大樽の中で細かい澱とともに平均6～9か月間熟成されます。清澄剤は使用しませんが、瓶詰め前にセルローズ繊維によるろ過を施します。またワインの“純度”を保つために、2002年からナチュラルコルクの使用をやめ、王冠で栓をすることにしました（クレマンはナチュラルコルクを使用）。これにより、同じキュヴェのすべてのボトルが時間とともに均等に熟成し、長期熟成が保証されるのです。私たちのワインにはどれも、テロワール、ヴィンテージ、そして私たち畑への手入れによって生まれた独特なバランスがあります。

私たちは、ワインを“製造する”のではなく、真正の生きたワインを“育て”ています。ジャン＝ピエール＆シャンタル・フリック】

	◎Crémant d'Alsace - sans sulfites ajouté クレマン・ダルザス サン・シュルフィト・アジュテ			備考	近年フリックのクレマンはVT毎のブドウの状態を見て、“瓶内二次発酵”の手法を変える。19VTまでは①メトード・アンセストラル、20VTは②。21～24VT③メトード・トラディショネル。というように造り分けている。
	畑	品種：ピノ・ブラン、オーセロワ他 ※品種構成はVTにより異なる	醸造		
	○Pinot Blanc ピノ・ブラン			備考	ピエール・フリックの定番白ワイン。アルザスらしい、果実味の厚みと、ピノ・ブランらしい酸。
	畑	品種：ピノ・ブラン100% 植樹：1980年 位置：標高150m、東向き 土壌：石灰質粘土	醸造		

	○Riesling (旧 Riesling Bihl) リースリング (旧リースリング・ビール)			備考	ピエール・フリックの定番白ワイン。原料としてブドウが使用される、3区画あるうちの2区画のBihlの畑で植え替えを行ったため、2019年は他の区画のRieslingを使用。そのため、先の約5年間は“Bihl”の呼称が外れる。
	畑	品種：リースリング100% 植樹：1977年(Bihl区画)、1985年(その他区画) 位置：小さい丘の上、南向き(ビール) 土壌：黄土混じりの粘土石灰土壌	醸造		
	○Riesling - Rot Murlé リースリング ロット・ミュルレ			備考	区画名は“赤い壁”を意味する。ストラスブルグの大聖堂のように、アルザス伝統的建築物は赤い砂岩で造られることが多い。硬い石灰質の敷石の上の、鉄分を含む褐色石灰質土壌。丘の頂上に位置する畑で、日照時間が最も長い畑の一つ。
	畑	品種：リースリング100% 位置：平野の近くの突出した丘の頂上(Rot murle区画) 土壌：硬い石灰質の敷石の上の鉄分を含む、褐色石灰質土壌 (Rot murle区画)	醸造		
	○Riesling - Vorbourg Grand Cru リースリング フォルブルグ・グラン・クリュ			備考	アルザス地方全体でみても、特に日照時間の多い、フォルブルグの丘にある畑。果実も熟しやすく、出来上がるのワインの熟成ポテンシャルも高い。
	畑	品種：リースリング100% 植樹：1988年 位置：標高270m、南向き 土壌：石灰質	醸造		
	○Riesling Macération - Vorbourg Grand Cru - sans sulfite ajouté リースリング・マセラシオン フォルブルグ・グラン・クリュ サン・シュルフィト・アジュテ			備考	アルザス地方全体でみても、特に日照時間の多い、フォルブルグの丘にある畑。果実も熟しやすく、出来上がるワインの熟成ポテンシャルも高い。
	畑	品種：リースリング100% 植樹：1988年 位置：標高270m、南向き 土壌：石灰質	醸造		
	○Riesling - Steinert Grand Cru リースリング シュタイネール・グラン・クリュ			備考	区画名：シュタイナーは一帯の中でも特に傾斜度が高い。シュタイナーとは、直訳すると、“小石の斜面”といったところで、石灰質の石が、多く見受けられる。味わいは垂直的で、優雅な骨格を持つ。
	畑	品種：リースリング100% 植樹：1988年 標高：270m 位置：南向き 土壌：石灰質	醸造		
	○Voyages - sans sulfite ajouté ヴォワイヤージュ サン・シュルフィト・アジュテ			備考	複数品種、時には複数ヴィンテージをアッサンブラージュして造るキュヴェ。このアッサンブラージュから造られたワインは、テロワールの空間と時間の旅に誘うことから、voyage=旅というキュヴェ名を連想し名付けた。醸造方法は毎年変えるつもりで、マセラシオンすることもある。2022VTはダイレクトプレス。
	畑	品種：シャスラ2/3、ミスカ1/3 植樹：シャスラ1980年代、ミスカ1970年代 位置：シャスラ、ミスカともに東向き 土壌：粘土石灰質	醸造		

	○Gewurztraminer Macération - sans sulfite ajouté ゲヴュルツトラミネール・マセラシオン サン・シュルフィト・アジュテ			備考	より熟度の高い、ゲヴュルツトラミネールを使用。 黄金に近いオレンジ色。柑橘類の花、赤い果実、シナモン、バニラ、生姜の香り。余韻は長く、胡椒やラム酒、バラやオレンジのジャムが感じられる。
	畑	品種：ゲヴュルツトラミネール100% 植樹：1990年代 位置：標高350m、北東 土壌：黄土の石灰質粘土、鉄分を含む石灰質粘土	醸造		
	○Gewurztraminer - Rot Murlé ゲヴュルツトラミネール ロット・ミュルレ			備考	柔らかで豊かな果実味、若干の残糖に由来するのか、おいしさがじわじわと伝わってくる。やさしい飲み口で、いいブドウから自然な形で仕上げる彼の信念が表れている。
	畑	品種：ゲヴュルツトラミネール100% 位置：平野の近くの突出した丘の頂上 (Rot murle区画) 土壌：硬い石灰質の敷石の上の鉄分を含む、褐色石灰質土壌 (Rot murle区画)	醸造		
	○Pinot Gris Macération - sans sulfite ajouté ピノ・グリ・マセラシオン サン・シュルフィト・アジュテ			備考	日当たりの特に良い、2つの区画のブドウを使用している。口当たりはドライだが、酸化的な甘みのニュアンスがあり、良く熟した果実を使っているの、品種固有のアロマも濃く、複雑。
	畑	品種：ピノ・グリ100% 植樹：1980年、1999年 位置：標高270m (北向き)、標高230m (東向き) 土壌：石灰質粘土、石灰石、	醸造		
	○Pinot Gris Macération - Vorbourg Grand Cru - sans sulfite ajouté ピノ・グリ・マセラシオン フォルブルグ・グラン・クリュ サン・シュルフィト・アジュテ			備考	畑：グラン・クリュ フォルブルグ 輝く深紅色。熟れた赤い果実、アーモンドの白い実、シナモン、タバコやウイスキーの香り。上品でかつドライ、細やかなタンニンとフレッシュさがありたっぷりとしている。余韻にはミネラルとサクランボの果核を長く感じさせられる。
	畑	品種：ピノ・グリ100% 植樹：2000年代 位置：標高350m、南南東 土壌：石灰質泥炭岩	醸造		
	○Pinot Gris Macération - Rot Murlé - sans sulfite ajouté ピノ・グリ・マセラシオン ロット・ミュルレ サン・シュルフィト・アジュテ			備考	区画名は“赤い壁”を意味する。ストラスブルグの大聖堂のように、アルザス伝統的建築物は赤い砂岩で造られることが多い。硬い石灰質の敷石の上の、鉄分を含む褐色石灰質土壌。丘の頂上に位置する畑で、日照時間が最も長い畑の一つ。
	畑	品種：ピノ・グリ100% 位置：平野の近くの突出した丘の頂上 (Rot murle区画) 土壌：硬い石灰質の敷石の上の鉄分を含む、褐色石灰質土壌 (Rot murle区画)	醸造		
	●Pinot Noir - Strangenberg - sans sulfite ajouté ピノ・ノワール ストランゲンベルグ サン・シュルフィト・アジュテ			備考	畑名の示す通り“急な斜面の丘”に位置する畑。ワインは生き生きと、活力がある。ドライフラワーやサクランボの種の風味。タンニンとブラックチェリーを余韻に長く感じる。飲み頃温度は15-17℃。
	畑	品種：ピノ・ノワール100% 位置：380m、東向き 土壌：硬い石灰質の敷石の上の褐色石灰質土壌	醸造		

●Pinot Noir - Physalis - sans sulfite ajouté ピノ・ノワール フィザリス サン・シュルフィット・アジュテ				
				Physalis=ホオズキの咲く畑からの単一区画キュヴェ。フレッシュな果実味が前面に出るよりも、スパイス、タバコ、カシス、スモークした肉などのアロマがあり、しなやかなタンニンのソフトな口当たりのワインがしやすい区画。突出した鉱物感よりも美しいバランスとエレガンスが特徴。 以前は区画の名を冠さないピノ・ノワールにブレンドしていたが、樹齢も落ち着いてきたため、2020VTからは分けて瓶詰めしている。
	畑	品種：ピノ・ノワール100% 位置：東向き (ロット・ミュルレの丘に隣接) 土壌：レスを含む粘土石灰質	醸造	